

令和7年度 社会 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

- 4年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎は目標値から9ポイント、活用は2ポイント前後下回っている。領域別正答率も全ての項目で目標値を下回っている。内容別正答率についても、8項目中7項目で目標値を下回った。特に「工場の仕事」については、目標値を29.7ポイント下回っており、工場の仕事や流通への理解、ひいては資料の読み取りに課題が見られる。
- 5年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎については、目標値を4.8ポイント下回っている。領域別正答率では全ての項目で目標値を下回っている。特に、「自然災害からくらしを守る活動」では目標値を10ポイント前後下回っている。内容別正答率では、「くらしをささえる水」で、目標値を10ポイント下回る結果となった。特に「先人のほたらき」の小問において、目標値を25ポイント下回るなど、記述式の問題に対して課題が見られる。
- 6年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎については0.2ポイント、活用についても1.3ポイント目標値を下回っている。領域別正答率では、6領域中3領域で目標値を下回った。特に「農業や水産業」「産業と情報の関わり」で3ポイント程度下回った。内容別正答率でも、「日本の食糧生産」の目標値の下回り方が10ポイント程と際立っている。そのことから資料やグラフの読み取りに課題が見られる。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各学年とも目標値を下回る結果となった。 4年生は、「工場の仕事」「安全なくらし」についての問題、5年生は「自然災害からくらしを守る」の問題、6年生は「世界の中の国土」についての問題の正答率が低く、地図や資料、グラフの読み取りや内容の正しい理解に課題が見られる。	各学年とも目標値を下回る結果となった。 4年生は「市の様子の変り変わり」の問題、5年生は「くらしをささえる水」「先人の動き」、6年生は「日本の食糧生産」の問題で、資料を基に考えたり、表現したりすることに課題が見られた。	全学年を通して、資料を基に判断したり表現したりすることに課題が見られた。特に記述問題や作図等、自身の考えを表現する問題において、正答率が低い傾向が見られる。

課題〈今回の調査結果から〉

- 知識・技能においては、単元によって理解の程度に差が出ている。学年によって傾向が異なるため一概には言えないが、地図記号や都道府県など、各単元で知識として定着させるべき事項は、学習の中で触れる機会を多くしていく必要がある。また、資料を読み取る技能についても課題が見られた。地図やグラフ、年表などの資料について、地域差、量の変化、時間の経過などに着目しながら正確に読み取る活動を授業に多く取り入れていく必要がある。
- 思考・判断・表現においては、各学年において資料を基に正答を判断したり、その社会的事象の特徴を表現したりすることに課題が見られた。資料の読み取りなどの技能は、授業中などに意図的に機会を設けて身に付けさせていく必要がある。それに加えて、読み取ったことをもとに表現する学習活動も行うことが必要である。授業の中で議論をしたり、資料を用いた新聞作りやプレゼン資料作りを行ったりして学習したことを表現することに慣れさせたい。
- 主体的に学習に取り組む態度については、学習したことを自分事として捉え、自らの意見をもち、表現することが重要になる。各時間や単元の終末において、自分の経験と照らし合わせながら、考えや感想を自分の言葉でまとめる活動を取り入れる必要がある。また、社会科の授業中だけでなく、身近な事象やニュースなどに日常生活の中でも触れ、感想や意見を交流するような場を設定する等の工夫をすることで、社会の一員としての意識や考え方のこつを掴めるのではないかと考えられる。